

問1 景気が後退する局面において、商品の価格である物価が継続的に下落し、それに対して貨幣の価値が相対的に上がっていく経済状態を何といいますか。（2020年 大阪公立入試 類似）

1. デフレーション 2. インフレーション 3. スタグフレーション 4. 円安

問2 市場経済において、技術革新によって製品の生産効率が向上した場合、需要曲線と供給曲線の関係から導かれる市場価格の変化として最も適切な説明を選びなさい。（2022年 山口公立入試 類似）

1. 供給曲線が右方に移動し、均衡価格は以前よりも下落する。 2. 供給曲線が左方に移動し、均衡価格は以前よりも上昇する。 3. 需要曲線が右方に移動し、均衡価格は以前よりも上昇する。 4. 需要曲線が左方に移動し、均衡価格は以前よりも下落する。

問3 近代法には「契約自由の原則」があり、一度成立した契約は守らなければならないのが原則です。しかし、現代社会においてクーリング・オフ制度のように、消費者が一方向的に契約を解除できる仕組みが必要とされる理由として、最も適切なものはどれですか。（2018年 愛知公立入試 類似）

1. 事業者と消費者の間には、情報の質や量、交渉力に大きな格差があるため。 2. 商品に欠陥があった場合、事業者がその過失の有無に関わらず賠償責任を負うべきだから。 3. 特定の企業が市場を独占し、価格を不当につり上げることを防ぐ必要があるから。 4. 契約後の商品の返品や交換にかかる費用を、すべて国が負担する仕組みにするため。

問4 市場経済において、複数の企業が話し合っ商品価格を不当につり上げるなどの行為を禁止している法律があります。公正かつ自由な競争を促すことで消費者の利益を守ることを目的とした、この法律の名称として正しいものを選びなさい。（2016年 香川公立入試 類似）

1. 独占禁止法 2. 消費者基本法 3. 製造物責任法（PL法） 4. 消費者契約法

問5 2016年と2022年の統計を比較すると、日本国内で株式の購入経験がある人の割合は31.6%から33.8%へと増加しています。この動向と、購入者の商品に対する理解度の変化について説明したものと、最も適切なものはどれですか。（2023年 兵庫公立入試 類似）

1. 株式の購入経験がある人の割合が増加しており、その内訳を見ると、商品を詳しく理解している層だけでなく、あまり理解せずに購入している層の割合もそれぞれ増加している。 2. 株式の購入経験がある人の割合は増加しているが、金融リテラシーの向上により、内容を理解せずに購入する層の割合は2016年比で大幅に減少している。 3. 将来への不安から投資への関心は高まっているものの、リスクを避ける傾向が強まったため、株式の購入経験がある人の割合は全体として減少傾向にある。 4. 株式の購入経験がある人の割合は増加しているが、この増加は、商品の性質を「詳しく理解している」と回答した専門的な知識を持つ層のみに限定されている。

問6 農産物の流通において、生産者から卸売業者、小売業者を経て消費者に届く一般的な経路に対し、生産者が消費者に直接販売する「産地直送」という形態があります。この流通形態が、消費者にとって「より安い価格で新鮮な商品を購入できる」というメリットを生む主な理由は、どのような仕組みによるものですか。（2020年 熊本県公立入試 類似）

1. 流通の各段階で発生する中間マージン（仲介手数料や利益）が削減されるため 2. 卸売業者が価格を調整することで、小売業者の仕入れ価格を低く抑えるため 3. 宣伝広告費を大幅に増やすことで、大量生産によるコストダウンを図るため 4. 生産者が自由に価格を決めることで、常に市場価格よりも高い利益を確保するため

問7 市場経済において、消費者が買いたいと考える「需要量」と、生産者が売りたいと考える「供給量」が一致したときに決まる価格を何というか。（2015年 千葉県公立入試 類似）

1. 公共料金 2. 均衡価格 3. 独占価格 4. 卸売価格

問8 景気が過熱している時期には、商品の需要量と供給量のバランスが変化し、物価が持続的に上昇する「インフレーション」が発生することがあります。この現象が起こるメカニズムとその影響について説明したものと、最も適切なものはどれか。（2017年 千葉県公立入試 類似）

1. 商品の需要量が供給量を上回ることで物価が上昇し、通貨の価値は相対的に下落する。 2. 商品の供給量が需要量を上回ることで物価が上昇し、通貨の価値は相対的に上昇する。 3. 商品の需要量が供給量を下回ることで物価が上昇し、通貨の価値は相対的に下落する。 4. 商品の供給量が需要量を下回ることで物価が下落し、通貨の価値は相対的に上昇する。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 デフレーション	需要が供給を下回る状態が続くことで、物価が下がり続ける現象を指します。一見、消費者に有利に見えますが、企業の利益減少や賃金の低下を招き、景気悪化の原因となることがあります。
問2	答え 1 供給曲線が右方に移動し、均衡価格は以前よりも下落する。	技術革新によって生産効率が向上すると、同じコストでより多くの製品を生産できるようになるため、生産者は供給量を増やします。価格と供給量の関係を示すグラフにおいて、この変化は供給曲線が右方に移動（シフト）する形で表されます。その結果、需要曲線との交点である均衡点は、移動前と比較して「価格が低く、数量が多い」位置に変わるため、市場における均衡価格は下落することになります。
問3	答え 1 事業者と消費者の間には、情報の質や量、交渉力に大きな格差があるため。	現代の消費生活では、専門知識を持つ事業者と一般の消費者の間に情報の格差が存在します。特に対面での強引な勧誘などでは、消費者が対等な立場で判断することが困難な場合があるため、実質的な公平を期すために法律によって消費者の権利が特別に守られています。
問4	答え 1 独占禁止法	市場経済では、企業同士がより良い商品を安く提供しようと競い合うことで、価格の安定や技術の向上が図られます。しかし、少数の企業が市場を独占したり、経営者同士が相談して価格を高く設定（カルテル）したりすると、消費者は不利益を被ります。こうした行為を防ぎ、市場における公正で自由な競争を維持するために制定されているのがこの法律です。
問5	答え 1 株式の購入経験がある人の割合が増加しており、その内訳を見ると、商品を詳しく理解している層だけでなく、あまり理解せずに購入している層の割合もそれぞれ増加している。	近年の日本では、資産形成への関心の高まりなどを背景に、株式を購入したことがある人の割合は上昇傾向にあります。統計的な推移を分析すると、その内訳は多岐にわたっており、商品の性質を「詳しく理解している」層や「ある程度理解している」層が増える一方で、「あまり理解していない」層や「理解していない」層も含めたすべてのカテゴリーにおいて、全体に占める割合が増加しています。投資がより身近なものとして広がりを見せる中で、単に取引を行うだけでなく、リスク管理を含めた金融リテラシーをいかに高めていくかが現代社会の重要な課題となっています。
問6	答え 1 流通の各段階で発生する中間マージン（仲介手数料や利益）が削減されるため	通常の流通経路では、卸売業者や小売業者などの複数の業者が関わるため、それぞれの段階で手数料や利益が上乗せされます。産地直送ではこれらの業者を通さないため、それらのコストを削減することができ、消費者は新鮮なものをより安く、生産者はより高い利益を得ることが可能になります。
問7	答え 2 均衡価格	需要曲線と供給曲線が交わる点では、買い手と売り手の希望する数量がちょうど一致する。この状態を均衡と呼び、その時の価格を均衡価格という。市場には価格の変動を通じて需要量と供給量を調整する機能があり、これによって過不足のない取引が実現される。
問8	答え 1 商品の需要量が供給量を上回ることで物価が上昇し、通貨の価値は相対的に下落する。	好景気の局面では、消費者の購買意欲が高まるため、市場では「買いたい量（需要量）」が「売りたい量（供給量）」を上回る状態になります。この需給バランスの変化によって商品の価格（物価）が持続的に上昇します。物価が上がるといことは、同じ金額の貨幣で買える品物が少なくなることの意味するため、お金そのものの価値（通貨価値）は以前よりも下がることになります。